
茶飲み友達との愉快的会話

メネ@分家

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

茶飲み友達との愉快的な会話

【Nコード】

N0928Q

【作者名】

メネ@分家

【あらすじ】

僕と君の、普通の会話。……その真偽は、とりあえず自分に聞いてください。

（前書き）

童話のようだったから童話カテゴリにしましたが、たぶん違います。いや絶対違いますがご了承ください。もしかしたらホラーですが、たぶん違います。絶対違うとはたぶん言い切れませんがご了承ください。

感想等あったらお願いします。

ああ、久しぶり。最近顔を見ないから、てっきり死んだか殺されたか食べられたかと思ってたよ。

今日は何にする？ この間、自分で飲み物を作ってみたんだ……いやごめん、あれは失敗だった。酸味が強すぎて、まるで飲めたものじゃない。やっぱり創作するのは難しいね。おっと、話が逸れたな。それで……今日は何にする？

分かった、シレットのミルクティーだね。相変わらず、君は相性が悪いのが好きなのか。香り付けにシナモンでも……分かった分かった、そんな怖い顔なんてしないでくれよ。ほんの冗談さ。そうだな、君がシレットなら僕はダージリンのストレートにしよう。深い意味は無いけど、強いて言うなら真逆にしたかったからかな。対照ほど美しいものは無いと思うんだ。

ちよっと待ってくれ、すぐに淹れてくるよ。ファストフードみたいに作り置きしとくなんて効率悪いのはしたくなくてね。それに、淹れたての方が美味しいだろう？ ……君が気にしなくとも、僕がそう思ってるんだ。まあいい、少し時間を取るね。

さてさて、今日の話はどうなるかな。ずいぶん前に数分で終わったような事があったけど、それは御免だね。僕だって暇で暇でしよугがないんだ。なるべく長く話していたい。それは君も同じと思うけどね……いや、君は違うかな。だって、君は僕の他にもたくさん友達がいるだろう。僕にも少し分けてほしいくらいだ。

それで、今日はどうなんだ？ まさか、何も持ってきてないとは言うなよ。君なら言いかねな、

………へえ。……それは、君が？ ふうん、友達か。なあ、も

しかして、それをここに置いて帰る気じゃないだろうな。僕も確かに好きだけど、他人のものに興味はないよ。ああ、でも、君の行動次第かな。少なくとも、何もせずに置くのは許さないぞ。その時はすぐに捨ててやる。

そんなにびつくりする事かな、普通じゃないか。自分のものだったら置いてやろうと思うけど、君の友達とはいえ他人なら不快を通り越して嫌悪だ。場合によっては君も危ないよ。……だから、そんなにびつくりした顔をするなっ。

いいか、コレクシオンってのは美德だ。他人の力を使っちゃ、全然美しくない。すべてを自分で行って初めて、それを蒐集する事を許されるんだ。……何に？ 面白い事を聞くね。自分とそれだよ、当たり前じゃないか。さては神様か何かだと思ってたな、僕が無神論者だという事を忘れたのかい。

ああ、でも。食べるなら良いよ。いつも形が悪いのは、食べて処理してるからね。君も食わず嫌いを克服するといい。いい加減、僕と同じ茶菓を食べようじゃないか。……そんなに嫌か、まったく。君の友達にだって、僕みたいに食べる奴もいるだろうに。どうしてそこまで毛嫌いするんだ？ ぜひ聞かせてくれよ。

不味そう……うん、もつともな意見だね。確かに癖のある味だけど、……おい、だからって不味いとは限らないだろ。君、ザクロって果物を食べた事はあるかい。いや、いや、僕はないんだけどね。まあ一般的に言つと、そのザクロに味が似てるらしいんだ。どうして、だって？ さあ、それは答えかねる。未知のものを騙った事で既に昇華するわけでもないだろう。

よし、前口上はこれくらいで終わりにして、早く腹の虫を黙らせようか。調理は僕に任せてくれ、生まれてこの方、特技と言ったらそれを上手く料理するぐらいしかないんだ。少しは誇ったつていいだろ。……あはは、ありがとう。

それじゃ、ちよっと捌いてくるよ。シレットを飲みながら待つてな。

ああ、良い匂いだ。どうしてあいつはこれが嫌いなのかな、こんなに美味そうなのに。干したら長持ちするし、気に入りそうだけど……そうだ、今度漬物にしてみるか。誰もやった事が無いからと言って、不味くなるとは決まっちゃいない。あいつも漬物が好きだし、そしたら食わず嫌いも直って一石二鳥だ。ん？ 治る、か？ やっぱり直る？ ……どっちな。まあいいか。

おうい、できたぞ。我ながら美味そうに作れたんだ、褒めてくれ。……おうい。どうした。

………あいつ、どこに行ったかな。

君、あいつがどこに行ったか知ってるかい？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0928q/>

茶飲み友達との愉快的会話

2011年1月16日05時02分発行